

2022年度

決 算 書

2022年 4月 1日 から

2023年 3月31日 まで

2023年 5月

一般財団法人 デジタルコンテンツ協会

2022年度 決算書目次

- 貸借対照表 P 1
- 正味財産増減計算書 P 2
- 正味財産増減計算書内訳表 P 4
- 財務諸表に対する注記 P 6
- 附属明細書 P 10
- 独立監査人の監査報告書 P 11
- 監事監査報告書 P 14

貸借対照表

2023年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	84,797,441	36,767,645	48,029,796
未収会費	0	100,000	△ 100,000
未収金	53,896,122	73,793,821	△ 19,897,699
前払金	279,820	283,322	△ 3,502
仮払金	0	0	0
棚卸資産	2,923,216	2,152,135	771,081
流動資産合計	141,896,599	113,096,923	28,799,676
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	89,030,000	300,500,000	△ 211,470,000
普通預金	100,180,000	180,000	100,000,000
基本財産合計	189,210,000	300,680,000	△ 111,470,000
(2) 特定資産			
退職給付引当預金	47,801,145	44,604,325	3,196,820
減価償却引当預金	2,099,540	1,763,133	336,407
特定資産合計	49,900,685	46,367,458	3,533,227
(3) その他固定資産			
建物付属設備	2,440,751	2,520,254	△ 79,503
什器備品	828,668	884,904	△ 56,236
ソフトウェア	128,271	167,739	△ 39,468
敷金	10,529,172	10,529,172	0
その他固定資産合計	13,926,862	14,102,069	△ 175,207
固定資産合計	253,037,547	361,149,527	△ 108,111,980
資産合計	394,934,146	474,246,450	△ 79,312,304
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,493,805	15,188,139	△ 12,694,334
預り金	553,947	563,989	△ 10,042
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	1,953,100	2,929,200	△ 976,100
流動負債合計	5,070,852	18,751,328	△ 13,680,476
2. 固定負債			
退職給付引当金	47,801,145	44,604,325	3,196,820
固定負債合計	47,801,145	44,604,325	3,196,820
負債合計	52,871,997	63,355,653	△ 10,483,656
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
民間補助金	189,210,000	300,680,000	△ 111,470,000
指定正味財産合計	189,210,000	300,680,000	△ 111,470,000
(うち基本財産への充当額)	(189,210,000)	(300,680,000)	(△111,470,000)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	(2,099,540)	(1,763,133)	(336,407)
正味財産合計	342,062,149	410,890,797	△ 68,828,648
負債及び正味財産合計	394,934,146	474,246,450	△ 79,312,304

正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	8,655,181	3,381,643	5,273,538
②受取会費	20,067,600	20,367,600	△ 300,000
③自主事業収益	9,862,320	11,922,774	△ 2,060,454
④国庫受託収益	0	8,904,977	△ 8,904,977
⑤民間法人等受託収益	125,117,868	77,896,824	47,221,044
⑥受取補助金等	2,028,368	3,247,244	△ 1,218,876
⑦基本財産振替額	100,000,000	0	100,000,000
⑧雑収益	244,192	6,537,322	△ 6,293,130
経常収益計	265,975,529	132,258,384	133,717,145
(2) 経常費用			
①事業費	190,144,831	156,133,942	34,010,889
役員報酬	11,364,020	11,364,020	0
職員給与	31,870,755	30,123,645	1,747,110
出向職員手当	1,548,776	1,648,092	△ 99,316
派遣職員手当	8,121,353	4,332,115	3,789,238
特別手当	10,660,969	10,122,308	538,661
通勤手当	692,558	680,461	12,097
法定福利費	8,976,621	8,531,104	445,517
退職給付費用	2,320,890	2,516,948	△ 196,058
講師謝金	3,206,700	1,728,700	1,478,000
委員謝金	316,500	503,000	△ 186,500
臨時傭役費	4,922,900	4,808,450	114,450
会議費	605,566	48,075	557,491
会場費	11,490,030	1,691,352	9,798,678
旅費交通費	3,313,420	228,640	3,084,780
委員交通費	1,706	6,128	△ 4,422
海外旅費	1,386,857	0	1,386,857
原稿料	1,225,800	1,225,800	0
翻訳料	156,240	480,550	△ 324,310
通信運搬費	2,167,656	1,716,044	451,612
減価償却費	297,782	344,411	△ 46,629
消耗品費	881,855	387,484	494,371
図書資料費	533,018	473,226	59,792
修繕費	631,217	502,037	129,180
印刷製本費	16,451,492	5,293,919	11,157,573
制作費	6,198,500	2,970,000	3,228,500
運営・実施費	39,958,299	27,984,365	11,973,934
調査費	2,838,500	18,117,000	△ 15,278,500
水道光熱費	155,749	150,813	4,936
清掃費	405,832	427,536	△ 21,704
賃借料	9,601,551	9,601,551	0
機器リース料	1,341,907	1,381,401	△ 39,494
保険料	17,620	9,960	7,660
諸謝金	1,764,100	2,126,500	△ 362,400
支払手数料	937,402	992,557	△ 55,155
諸会費	9,900	9,900	0
租税公課	3,767,550	3,605,850	161,700
雑費	3,240	0	3,240

科 目	当年度	前年度	増 減
②管理費	31,770,711	30,325,843	1,444,868
役員報酬	4,463,307	4,463,307	0
職員給与	12,028,356	11,368,980	659,376
出向職員手当	15,644	16,648	△ 1,004
特別手当	4,023,561	3,820,265	203,296
通勤手当	261,378	256,813	4,565
法定福利費	3,387,871	3,219,728	168,143
退職給付費用	875,930	949,922	△ 73,992
福利厚生費	57,100	44,000	13,100
会議費	122,397	2,946	119,451
会場費	90,332	0	90,332
旅費交通費	35,738	22,514	13,224
通信運搬費	267,863	223,949	43,914
減価償却費	61,425	71,041	△ 9,616
消耗品費	37,748	47,166	△ 9,418
図書資料費	28,600	28,600	0
修繕費	130,203	103,557	26,646
印刷製本費	249,375	113,440	135,935
水道光熱費	32,126	31,108	1,018
清掃費	83,712	88,188	△ 4,476
賃借料	1,980,537	1,980,537	0
機器リース料	276,798	284,945	△ 8,147
保険料	12,640	12,640	0
支払手数料	179,595	167,173	12,422
諸会費	1,672,600	1,672,600	0
租税公課	65,810	21,360	44,450
雑費	120,065	104,416	15,649
監査費用等	1,210,000	1,210,000	0
經常費用計	221,915,542	186,459,785	35,455,757
評価損益等調整前当期經常増減額	44,059,987	△ 54,201,401	98,261,388
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	44,059,987	△ 54,201,401	98,261,388
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
受取補助金等	0	3,200,000	△ 3,200,000
退職給付引当金取崩益	0	19,263,440	△ 19,263,440
經常外収益計	0	22,463,440	△ 22,463,440
(2) 經常外費用			
固定資産除却損	22,800	0	22,800
經常外費用計	22,800	0	22,800
当期經常外増減額	△ 22,800	22,463,440	△ 22,486,240
税引前当期一般正味財産増減額	44,037,187	△ 31,737,961	75,775,148
法人税、住民税及び事業税	1,395,835	588,130	807,705
当期一般正味財産増減額	42,641,352	△ 32,326,091	74,967,443
一般正味財産期首残高	110,210,797	142,536,888	△ 32,326,091
一般正味財産期末残高	152,852,149	110,210,797	42,641,352
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	8,655,181	3,381,643	5,273,538
基本財産受取利息	8,655,181	3,381,643	5,273,538
基本財産評価益	0	0	0
基本財産評価損	11,470,000	3,930,000	7,540,000
一般正味財産への振替額	△ 108,655,181	△ 3,381,643	△ 105,273,538
当期指定正味財産増減額	△ 111,470,000	△ 3,930,000	△ 107,540,000
指定正味財産期首残高	300,680,000	304,610,000	△ 3,930,000
指定正味財産期末残高	189,210,000	300,680,000	△ 111,470,000
III 正味財産期末残高	342,062,149	410,890,797	△ 68,828,648

科 目	実施事業等会計				その他会計	法人会計	内部取引等消去	合計
	コンテンツ産業振興事業	国際展開事業	技術開発事業	ビジネス支援事業				
管理費	0	0	0	0	0	31,770,711	0	31,770,711
役員報酬	0	0	0	0	0	4,463,307	0	4,463,307
職員給与	0	0	0	0	0	12,028,356	0	12,028,356
出向職員手当	0	0	0	0	0	15,644	0	15,644
特別手当	0	0	0	0	0	4,023,561	0	4,023,561
去冬増利費	0	0	0	0	0	261,378	0	261,378
退職給付費用	0	0	0	0	0	3,387,871	0	3,387,871
福利厚生費	0	0	0	0	0	875,930	0	875,930
会議費	0	0	0	0	0	57,100	0	57,100
会費	0	0	0	0	0	122,397	0	122,397
旅費交通費	0	0	0	0	0	90,332	0	90,332
通信運搬費	0	0	0	0	0	35,738	0	35,738
減価償却費	0	0	0	0	0	267,863	0	267,863
消耗品費	0	0	0	0	0	61,425	0	61,425
図書資料費	0	0	0	0	0	37,748	0	37,748
印刷製本費	0	0	0	0	0	28,600	0	28,600
水道光熱費	0	0	0	0	0	130,203	0	130,203
賃借料	0	0	0	0	0	249,375	0	249,375
賃借料	0	0	0	0	0	32,126	0	32,126
燃料	0	0	0	0	0	83,712	0	83,712
機器リース料	0	0	0	0	0	1,980,537	0	1,980,537
保険料	0	0	0	0	0	276,798	0	276,798
支払手数料	0	0	0	0	0	12,640	0	12,640
雑費	0	0	0	0	0	179,595	0	179,595
租税公課	0	0	0	0	0	1,672,600	0	1,672,600
雑費	0	0	0	0	0	65,810	0	65,810
雑費	0	0	0	0	0	120,065	0	120,065
雑費	0	0	0	0	0	1,210,000	0	1,210,000
経常費用計	47,363,986	54,941,866	81,725,534	6,113,455	6,113,455	31,770,711	0	221,915,547
評価損益等調整額	△ 17,709,190	△ 32,476,942	3,285,266	3,946,545	3,946,545	87,014,308	0	44,059,987
当期経常増減額	△ 17,709,190	△ 32,476,942	3,285,266	3,946,545	3,946,545	87,014,308	0	44,059,987
経常外増減の部	0	0	0	0	0	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
固定資産売却損	0	0	0	0	0	22,800	0	22,800
什器備品除却損	0	0	0	0	0	22,800	0	22,800
経常外費用計	0	0	0	0	0	44,037,187	0	44,037,187
当期経常外増減額	△ 17,709,190	△ 32,476,942	3,285,266	3,946,545	3,946,545	86,991,508	0	44,037,187
他会計振替前当期一般正味財産増減額	18,480,271	32,476,942	△ 3,285,266	△ 3,946,545	△ 3,946,545	△ 43,725,402	0	44,037,187
税引前当期一般正味財産増減額	771,081	0	0	0	0	43,266,106	0	44,037,187
法人・住民税及び事業税	0	0	0	0	0	1,395,835	0	1,395,835
国庫	0	0	0	0	0	1,325,885	0	1,325,885
均等割	0	0	0	0	0	70,000	0	70,000
当期一般正味財産増減額	771,081	0	0	0	0	41,870,271	0	42,646,352
一般正味財産期首残高	2,152,135	0	0	0	0	108,058,662	0	110,210,797
一般正味財産期末残高	2,923,216	0	0	0	0	149,928,933	0	152,852,149
II 指定正味財産増減の部	0	0	0	0	0	8,655,181	0	8,655,181
基本財産運用益	0	0	0	0	0	8,655,181	0	8,655,181
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	11,470,000	0	11,470,000
基本財産評価損	0	0	0	0	0	11,470,000	0	11,470,000
基本財産評価損	0	0	0	0	0	△ 108,655,181	0	△ 108,655,181
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	△ 111,470,000	0	△ 111,470,000
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	300,680,000	0	300,680,000
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	189,210,000	0	189,210,000
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	339,138,933	0	342,062,149
指定正味財産期末残高	2,923,216	0	0	0	0	2,923,216	0	342,062,149
III 正味財産期末残高	2,923,216	0	0	0	0	339,138,933	0	342,062,149

財務諸表に対する注記

この財務諸表は「公益法人会計基準（平成20年4月11日 改正平成21年10月16日 改正令和2年5月15日 内閣府公益認定等委員会）」に準拠して作成している。

1. 継続組織の前提に関する注記

貸借対照表日において、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は存在しない。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券及び子会社株式並びに関連会社株式以外の有価証券

当年度末日における市場価格に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

収益事業在庫品・・・総平均原価法に基づく低価法によって評価している。

(3) 固定資産の減価償却の方法

① 建物付属設備・什器備品・・・定額法による減価償却を実施している。

② ソフトウェア・・・定額法による減価償却を実施している。

(4) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・当期末に在籍している役職員に対する期末退職給与の要支給額を基準とした金額の100%相当額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理・・・消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	300,500,000	0	211,470,000	89,030,000
普通預金	180,000	200,000,000	100,000,000	100,180,000
小 計	300,680,000	200,000,000	311,470,000	189,210,000
特定資産				
退職給付引当預金	44,604,325	3,196,820	0	47,801,145
減価償却引当預金	1,763,133	359,207	22,800	2,099,540
小 計	46,367,458	3,556,027	22,800	49,900,685
合 計	347,047,458	203,556,027	311,492,800	239,110,685

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
投資有価証券	89,030,000	(89,030,000)	-	-
普通預金	100,180,000	(100,180,000)	-	-
小 計	189,210,000	(189,210,000)	-	-
特定資産				
退職給付引当預金	47,801,145	-	-	(47,801,145)
減価償却引当預金	2,099,540	-	(2,099,540)	-
小 計	49,900,685	-	(2,099,540)	(47,801,145)
合 計	239,110,685	(189,210,000)	(2,099,540)	(47,801,145)

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、下記のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却 累計額	当期末残高
建物付属設備	2,599,757	159,006	2,440,751
什器備品	1,719,458	890,790	828,668
ソフトウェア	197,340	69,069	128,271
合 計	4,516,555	1,118,865	3,397,690

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及びその残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照上の記載区分
自転車等機械振興事業 (デジタルコンテンツE XPO2022開催等 補助事業)	公益財団法人 JK A	0	2,028,368	2,028,368	0	
合 計		0	2,028,368	2,028,368	0	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産運用益	8,655,181
基本財産振替額	100,000,000
合 計	108,655,181

8. 実施事業資産の内訳

実施事業資産の内訳は、次のとおりである。

科 目	金 額
棚卸資産	2,923,216
合 計	2,923,216

9. 金融商品の状況に関する注記

(1) 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の相当部分を運用益によって賄うため、債券、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、デリバティブを組み込んだ複合金融商品（仕組債）のみであり、一定の金額を限度としている。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は、債券、デリバティブ取引を組み込んだ債券（仕組債）であり、発行体の信用リスク、市場リスク（金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク）にさらされている。なお、投資有価証券には、リスクが高いものとして、中途解約が著しく制約されていることにより、満期到来までに資金化することが極めて困難な流動性に乏しい債券（仕組債）100,000,000円（額面）が含まれている。

(3) 金融商品のリスクに係る管理体制

①資産運用等規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用等規程に基づき行う。

②信用リスクの管理

債券及び仕組債については、発行体の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会及び評議員会に報告する。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の明細は、財務諸表に対する注記3「基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」に記載しているため省略する。

2. 引当金の明細

(単位:円)


科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	44,604,325	3,196,820	0	0	47,801,145

独立監査人の監査報告書

2023年5月18日

一般財団法人デジタルコンテンツ協会
理事会 御中

田中義幸公認会計士事務所
東京都新宿区
公認会計士



監査意見

私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第119条において準用する同法第124条第2項第1号の規定に基づき、一般財団法人デジタルコンテンツ協会の2022年4月1日から2023年3月31日までの2022年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインⅡ-4の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続きを立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続きを立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表等の表示および注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表

示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査報告書

2023年5月18日

一般財団法人 デジタルコンテンツ協会
会長 河口洋一郎 殿

監事 後藤 健



監事 松浦 義



私たち監事は、当協会の2022年4月1日から2023年3月31日までの事業年度の理事の職務を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等との意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに正味財産増減計算書内訳表）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査意見

- (1) ① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (2) 計算書類及び附属明細書は、法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上